

事後評価報告書
(日本-ドイツ研究交流)

1. 研究課題名: 「触覚学習および触覚フィードバックを用いた運動制御」

2. 研究代表者名:

日本側: (株)国際電気通信基礎技術研究所 脳情報研究所 室長 森本 淳

相手側: University of Gottingen, Bernstein Center for Computational Neuroscience, Professor Florentin Worgotter

3. 総合評価: S

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

日本側での行動実験と脳活動計測、ドイツ側での計測デバイス開発・数理モデル構築が一体化できたこと、および、共同研究の成果で、安静時 fMRI によって学習スコアの予測が可能となり、運動機能と感覚機能の統合がうまくいかない人へのニューロリハビリテーションへの応用が開けたことは高く評価できる。日本側の fMRI 実験とモデリングの技術を活かして、今後のさらなる共同研究成果の展開が期待できる。

(2)交流活動の評価について

当初より、日独の役割分担が明確であり、その分担にしたがって共同研究が進展したこと、また、事業終了後も双方の間でネットワークミーティングを行い、今後の共同研究の展開についての議論を進めていることは高く評価できる。

一方で、研究費の多くを人件費に充当することが計画されていたので、雇用した博士研究員の育成状況についても具体的な記載があると良かった。

(3)その他

触覚の研究として展開したが、それ以外の系への展開の可能性として、手法のコンセプト等がまとめられることを期待したい。